

学校名	小城市立 牛津中学校
-----	------------

1 前年度 評価結果の概要	<p>「確かな学力の育成」については、全職員による相互参観授業や効果的にICTを活用することで、授業の質が向上し、ほぼ全生徒が「先生方の授業は分かりやすい」と答えており、生徒が意欲的に授業に臨む姿が見られた。また、県学習状況調査の正答率の向上につながった。今後さらに教職員・生徒のICT活用スキルを上げることで、授業の質の向上に努めたい。「豊かな人間性の育成」については、ほぼ全生徒が「望ましい学年・学級集団づくりをされている」と答えたことから、学級活動や道徳等の授業、行事等を通して、「思いやり」や「感謝」について考えることができた。「健やかな体の育成」については、9割以上が「健康教育」を通じて、「自他の命を尊重する態度が育ったと思う」生徒や「健康に食事は大切である」と生徒が答えたことから、健康や安全に対する意識を高めることができたと考える。業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減については、さらに、意識改革を図り、推進していきたい。</p>
------------------	--

2 学校教育目標	豊かな人間性を培い、志を高く学び続ける生徒の育成 ～ 主体性を高めることを通して ～
----------	---

3 本年度の重点目標	<p>① 確かな学力の育成：基礎的基本的な学習内容の定着と家庭学習の習慣化を図る</p> <p>② 豊かな人間性の育成：支持的風土をもつ集団づくりを推進し、感謝する心の育成を図る</p> <p>③ 健やかな体の育成：健康、安全に対する意識を高め、基礎的な体力の向上を図る</p>
------------	---

4 重点取組内容・成果指標

(1)共通評価項目			
重点取組			
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組
●学力の向上	○効果的にICTを活用した授業の実践	○「ICTを活用した授業を実施した」と答える教員を100%にする。	・ICT活用研修を必要に応じて実施し、職員のICT活用技能向上を目指し、わかりやすい授業の実践を目指す。 ・最低一人1回の参観授業を行い、積極的且つ効果的な授業でのICT活用を目指す。
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○生徒一人一人が安心して生活できる学校・学年・学級集団づくりを推進し、「特別な教科 道徳」の学習を通し、自己有用感・自己肯定感を伸ばしていくことができるよう、アンケート調査等を活用しながら検証し、割合を80%以上にする。	・学年職員全員で、「特別な教科 道徳」の授業を行い、豊かな人間性を培い、支持的風土を醸成し、認め合い支えあえる学校・学年・学級集団づくりの推進を行う。
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○生徒の日常生活や相談、つぶやき等、生徒の変容を常に観察し、「小城市のいじめ防止・心を考える日」を活用し、定期的な調査等(月に1回)を実施する。	・生徒指導部会や生徒支援部会の運営を充実させることで全職員で情報を共有し、各種研修等で職員のスキルアップを図るとともに、いじめの未然防止に努める。 ・QUの実施により、支援が必要な生徒の把握と対応に努める。
	●◎児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童生徒90%以上 ●◎「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童生徒90%以上	・生徒の学力向上・資質・能力を育む授業づくりに関する校内研修等の実施。 ・各種活動で児童生徒に活動の見通しと振り返りを行う活動の充実。 ・生徒指導の機能を生かした取り組み。(出番・役割・承認)
●健康・体づくり	●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	●「健康に食事は大切である」と考える生徒95%以上	・学校給食を「食育」の中心に据え、健やかな体を育むための食に対する知識の習得と自分の健康について考えた食事をしようとする態度の定着を図る。 ・早寝、早起き、朝ご飯の推進。
	○健康・安全教育の推進	○健康教育や予防教育等を年1回計画し実施する。	○発育測定などで自分の体のことを知り、健康を守ろうとする意識を高めるために、学校医等の外部講師による保健指導の工夫。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・部活動活動方針を遵守し、活動時間や活動内容の適正化を図る。 ・定時退勤推進日の設定を行うとともに声かけを行う。
	○チームを意識した効率的な業務の推進	○効率的な業務への取組を推進するとともに、教職員の時間外在校時間を1か月当たり、前年度比より削減する。	・チームによる組織的な対応を進めることで校務分掌や個人の負担軽減を図るとともに、風通しのよい職場環境づくりを進める。

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目			
重点取組			
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組
○小中連携	○小中連携による学力向上の取り組み	○小中による授業参観を学期に1回行う。	・小中による授業参観後、情報交換会を行い、成果と課題、今後の取り組みについて検討、共有する。
○特別支援教育の充実	○個別の支援計画等により、職員の共通理解を図る	○特別に支援を要する生徒の共通理解・共通実践により保護者・生徒の希望進路を実現できるように努める。	・支援を要する生徒への対応・支援体制の組織化を図るため、特別支援教育コーディネーターや進路指導主事を中心にSC、SSW等との連携を図る。 ・巡回相談及び専門家派遣が必要なときには研修機会を設け、保護者との連携を図り、専門家からの指導・助言を支援に生かす。

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育

5 総合評価・ 次年度への展望	<p>・</p> <p>・</p> <p>・</p>
--------------------	----------------------------